

# 令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
1 教職員は、多様な生徒・保護者に対応できるよう様々な研修等で指導力を向上させ、生徒の「確かな学力」の定着を目指す。	① 研修等で生徒理解を深め指導力の向上を目指す。また少人数授業でのきめ細かな指導を行い「確かな学力」の定着を図る。	「授業の内容は理解できている」と答えた生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	<b>B</b> 93.3%	生徒の興味・関心を引き出す授業方法を工夫している。また、多様な生徒個々に配慮しながら、各科目の基本事項の定着に重点を置いて学習指導にあたることで、一定の成果をあげている。 (今年度中間期 92.6%)
		「様々な研修等を積極的に活用し、指導力向上ができています」と答えた教員の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	<b>A</b> 100.0%	校内研修や情報交換の機会を設けたり、他校の公開授業を参観するなどして、より効果的な学習指導ができるように、日々研鑽を積んでいる。 (今年度中間期 100.0%)
	② 主体的・対話的で深い学びを目指す。	「自分の考えや意見を意識して発言や文章で表現しようとしている」と答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	<b>B</b> 83.5%	各授業において、生徒が自分の考えや意見を持ちやすいような発問の仕方を心掛けている。また、人前で話をするのが苦手な生徒が多いため、様々な形式で自分の考えや意見を表現できるように、発表方法を工夫している。 (今年度中間期 82.6%)
	③ 生徒の興味・関心・理解度を向上させる工夫を行う。	「先生方は絵や写真の提示や機器を使うなど、教え方を工夫している」と答えた生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	<b>B</b> 93.7%	ほとんど全ての科目で、ICTを効果的に活用しており、絵や写真、図を用いて授業がより分かりやすくなるように心掛けている。今後もさらなる工夫改善に努めていく。 (今年度中間期 94.8%)
④ 授業規律の徹底を図り、積極的に授業に参加するようにする。	「授業に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒の割合が A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	<b>A</b> 95.5%	大多数の生徒は、授業に取り組む姿勢が良好である。今後も多様な生徒の状況に十分配慮しながら、生徒がより意欲的に授業に臨めるように、授業改善を行っていく。 (今年度中間期 95.1%)	
学校評議員から出た意見・提言			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習においては、生徒が好きなことからそ野を広げて、次第に他の分野にも興味を持たせることができればよい。</li> <li>・生徒は小学校中学年時からパワーポイントを用いて発表するなど電子機器の扱いに慣れているので、それを活かせるような指導をしていけるとよい。</li> </ul>	
学校評議員から出た意見・提言を踏まえた今後の改善方法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味・関心を引き出せるように、授業において、できるだけ多方面の題材を扱う。</li> <li>・生徒が自分の考えや意見を発表しやすいように、ICTを効果的に活用する。</li> </ul>	

# 令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
<p>2 生徒が主体となる活動を充実させ、基本的な生活習慣の確立と社会性の向上を目指す。</p>	<p>① 学校行事等に積極的に参加させることにより、生徒同士が共同で取り組む機会を設け、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p>	<p>「様々な行事に積極的に参加し、友人との関係を深めることができた」と答えた生徒の割合が                      A 80%以上である                      B 70%以上である                      C 60%以上である                      D 60%未満である</p>	<p><b>B</b> 74.3%</p>	<p>元々人付き合いが苦手で、自ら進んで集団に交われない生徒が多い。その中でも、行事などを通じて、友人と交流しながら、次第にコミュニケーションを取れるようになってきている生徒もいる。                      (今年度中間期 77.0%)</p>
	<p>② 来校者及び教員に対してしっかりと挨拶ができるようにする。また、地域の方々と交流する機会を増やし、社会の一員であることを体感させる。</p>	<p>「来校者や先生方に対して、自ら進んで挨拶をしている」と答えた生徒の割合が                      A 80%以上である                      B 70%以上である                      C 60%以上である                      D 60%未満である</p>	<p><b>B</b> 77.0%</p>	<p>大人しい生徒や対人関係が苦手な生徒にとっては、自らすすんで挨拶をすることが難しいと思われる。しかし、教職員の方から挨拶をすると、元気に挨拶を返してくれたり、会釈などの反応を返してくれる生徒がほとんどである。                      (今年度中間期 78.6%)</p>
	<p>③ 教育活動を通して、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境作りや、自己肯定感が育めるよう、校内環境の充実を図る。</p>	<p>「いじめ防止の取り組みの中で、弱いものいじめや卑怯な振る舞いを許さない指導を常に心がけている」と答えた教員の割合が                      A 95%以上である                      B 85%以上である                      C 75%以上である                      D 75%未満である</p>	<p><b>A</b> 100.0%</p>	<p>全教職員が、生徒の些細な変化に目を配りながら、できるだけ生徒とコミュニケーションを取る機会を設けるようにしている。また、教職員間で生徒の情報交換を綿密に行っている。                      (今年度中間期 100.0%)</p>
		<p>「いじめは許されないことと理解して、相手の気持ちを考えて行動できる」と答えた生徒の割合が                      A 95%以上である                      B 85%以上である                      C 75%以上である                      D 75%未満である</p>	<p><b>A</b> 96.5%</p>	<p>ほとんどの生徒が、いじめは許されないことだと十分に認識している。今後も生徒が、あらゆる場面で相手の気持ちを考えた行動ができるように、促していく。                      (今年度中間期 97.6%)</p>
<p>学校評議員から出た意見・提言</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に学校のPR動画を作成させることで、学校のことをさらによく知ることができるのではないかと。また、そのビデオを文化祭や学校見学などで発表できるとよい。</li> <li>・文化祭では、無理のない形で一人一人に役割を認識させ、達成感や喜びを感じさせられるとよい。</li> </ul>
<p>学校評議員から出た意見・提言を踏まえた今後の改善方法</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が作成した学校のPR動画を文化祭や学校見学などで発表する。</li> <li>・学校行事の内容を再考し、生徒がこれまで以上に活躍し、自信を深められる機会を作っていく。</li> </ul>

# 令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3 授業や進路行事、個人面談等を通して、早い時期から進路意識や自己肯定感を高め、望ましい勤労観、職業観を育成し、進路実現を目指す。	① 授業や進路行事、個人面談等の様々な教育活動を通して、進路意識や自己肯定感の向上や望ましい勤労観・職業観を啓発する。またキャリアパスポートの活用により進路目標を決定させ、その実現に向け意欲的に努力するよう働きかける。	「授業や進路行事・個人面談等を通して、生徒の進路意識や自己肯定感を高める働きかけを行った」と答えた教員の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	<b>A</b> 100.0%	進路行事の事前・事後の指導や個人面談などを通して、生徒の進路意識が高まるように工夫している。今後も生徒個々の状況を踏まえながら、生徒の自己肯定感が高められるように働きかけていく。 (今年度中間期 95.8%)
		「授業や進路行事・個人面談等を通して、進路意識や自己肯定感が高まった」と答えた生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	<b>B</b> 75.2%	様々な職種の方や、生徒と比較的年齢の近い卒業生の方などの話を聴くことで、進路意識を高められた生徒がいる。また、学校生活やアルバイトなどの経験を通して、自分の存在意義を感じ、自己肯定感を高められた生徒もいる。 (今年度中間期 65.9%)
	② 一人一人の生徒に目を向けた指導を通して、進路実現を図る。	「先生は自分のことをよく理解して、進路について適切なアドバイスしてくれる」と答えた生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	<b>B</b> 78.8%	教職員は日頃から様々な方法で、生徒との信頼関係を築こうとしている。個人面談においても、生徒の話を傾聴し、生徒の立場になって考えることを意識しており、生徒が話しやすい環境作りを心掛けている。 (今年度中間期 81.0%)
		進学・就職を希望している卒業生の進路決定率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	<b>A</b> 93.8%	生徒の興味・関心を踏まえたうえで、個々の生徒に適した進路について指導・助言している。また、定通企業ガイダンスや進路講話、企業見学などの学校行事を活用して、生徒の進路意識を高めている。 (昨年度最終期 90.6%)
学校評議員から出た意見・提言		・個人面談において、時期を決めると生徒が構えてしまうので、各生徒の状況に応じて適切な時期に面談をするとよい。		
学校評議員から出た意見・提言を踏まえた今後の改善方法		・教職員は日頃から生徒とコミュニケーションをとり、生徒がいつでも相談しやすい関係の構築に努める。		

# 令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
4 日頃から教職員の危機管理意識を高め、不測の事態へ備える。	① 危機管理マニュアルを必要に応じて随時更新する。防犯教室や防災訓練を通して、教職員の危機管理意識と、生徒の安全に対する意識を高める。	緊急時における役割分担、連絡体制、対応手順など危機管理マニュアルの内容を定期的に確認し、実践できるようにしている教職員の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	A 90.5%	教職員は日頃から生徒の安全を意識している。災害を含め、不測の事態が生じた際に、落ち着いて適切な対応ができるように、日頃から準備しておく必要がある。 (今年度中間期 95.8%)
学校評議員から出た意見・提言			・ほとんど地震が無い外国出身の生徒にも伝わるような避難訓練を実施できるとよい。また、被災時に本当に何に困るのかという理解が深められるとよい。	
学校評議員から出た意見・提言を踏まえた今後の改善方法			・防災教育において、被災地域の経験や教訓及び被災時の具体的な対応策を学ばせていく。	

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
5 ワークライフバランスの推進という観点から、業務の精選および効率化を進める。	① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。	「業務ごとにスケジュール管理を的確に行い、効率化を図るとともに、生徒や保護者と向き合う時間の確保に努めている」と答えた教職員の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	A 95.2%	職員会議におけるペーパーレス化や、グーグルフォームを用いたアンケート回答など、日頃の業務の効率化を図っている。今後も常に業務改善を心掛け、生徒や保護者と向き合う時間を十分確保し、生徒理解に努めていく。 (今年度中間期 100.0%)
学校評議員から出た意見・提言			・教員の心に余裕が無いと、それが生徒にも伝わり、生徒は教員に相談しにくくなる。業務を精選し、生徒が関わりやすい環境を整えていくとよい。	
学校評議員から出た意見・提言を踏まえた今後の改善方法			・業務の精選を進め、教員が心に余裕をもって生徒に対応できるように工夫していく。	